

国際人文学部国際文化学科カリキュラム・マップ

DP (教育目標)

- DP1 文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解することができる。
- DP2 世界の中の日本の姿を認識し、理解することができる。
- DP3 自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け、適切に理解することができる。
- DP4 一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。
- DP5 日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝えることができる。
- DP6 必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用することができる。
- DP7 異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め、協調・協働して行動することができる。
- DP8 習得した教養や技能を活かして、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	SDGs該当項目	
キャリア形成科目群	基礎演習A	1	必修	大学での学びに必要な基本的な考え方を身につけ、継続的・能動的な学習と、口頭発表や文章執筆に必要な知識・技法を習得する。 高等学校から大学への円滑な移行を図るため、大学での学習に必要な基本的なスキルを講義形式で解説したのち、各自の課題にそって情報収集を行う。					○	◎	○			
	基礎演習B	2	必修	基礎演習Aに引き続き、大学での学びに必要な考え方を身につけ、継続的・能動的な学習と、口頭発表や文章執筆に必要な知識・技法を習得する。 大学の2年次以降の学修に支障なく入っていけるよう、必要な基本的なスキルについてさらに解説し、各自の課題にそって情報収集を行う。					○	◎	○			
	基礎演習C	2	必修	この授業では、次の2点を目標としている。 ①3年次に国際文化演習を履修するための準備を行う。研究テーマの設定・先行研究や資料収集の方法・発表スライドのまとめ方、レポート作成方法等について学び、卒業論文(卒業制作)作成に必要な技術を習得する。学期末には原稿用紙20枚程度の小論文を作成する。 ②卒業後の進路決定について考える準備を行う。インターンシップについての情報を調べて共有すると共に、就職課が実施する説明会に参加する。					○	◎	○			
	キャリア形成演習	2	選択	キャリア形成のための主体的・自律的な学びを実現できるよう、必要な基礎知識を修得するとともに、必要な情報を適切な方法で収集および活用し、柔軟な思考力や判断力をもって行動する力を養うことを目標とする。 この授業を履修することを通じて、卒業後の進路について具体的な目標を設定し、計画的に就職活動を進めていけるようになることを狙いとしている。前半ではインターンシップ・エントリーや就職活動における最小限のトレーニングを行う。後半では、SPI問題集に取り組むことを通じて、問題処理能力の向上を図る。短時間に正解に辿り着くことが出来るよう、繰り返し練習問題に取り組んで欲しい。							○	◎	4,8	
	ビジネス入門	2	選択	本講義の目的は、主に営利企業を中心として、ビジネス社会の仕組み、企業の特徴、そこでのビジネスの進め方などを理解することにある。合わせて、将来社会人となった場合に不可欠なビジネスの知識も身に付ける。 ビジネスの世界への入門講義として、企業経営の基礎を学ぶ。履修者が、理論とケースディスカッションを通じて企業のグローバル展開や事業分析、そしてスタートアップなどに理解と関心を深めること、そして、今後のキャリア形成を考える上で、本講義がその礎となるとを目標とする。							○	○	◎	8
学部コア科目群	歴史・文化の視点	2	選択	大学での歴史の学習について、高校までの歴史の授業との違いを意識しながら、文化を歴史的に捉えていくために求められる基本的な視点を身につける。歴史の材料である史料の特性と、それらを利用した研究事例をもとに議論を進める。 歴史学の基礎的な事項について、日本史学の領域を中心に講義形式で説明する。研究に必要な作業の具体像について、担当教員の経験も交えながら解説することで、受講者が具体的なイメージを持てるようにしたい。	◎		○			○				
	異文化理解	2	選択	多文化、多言語、多民族社会の在り方、異文化間接触に関する様々な課題について学び、異文化を理解する知識と方法を身につけることを目標とする。さらに、昨年から外国人労働者の受け入れを容易にした日本において、多民族多言語多文化社会に変貌しつつあり、ホスト社会とマイノリティ・ディアスポラとの関係のあり方について理解することも目標とする。 グローバル化する世界においては、ヒト、モノ、カネの流れが益々ボーダレス化し、ヒトや文化の国際交流が盛んになっている。そして個人が異文化に接触する機会が飛躍的に増大している。それとともに異文化を理解することの重要性も増している。この講義では、日本や他の世界の文化を例に挙げながら、異文化理解の必要性、異文化理解の仕方、異文化理解に必要な心構えなどを学ぶ。	◎		○					○	10	
	世界の中の日本	2	選択	世界の中の日本、とりわけ日本と中国との歴史的関係を中心に勉強することを通じて、世界における日本の役割の変化を理解し、今後日本の国際的地位向上などについてともに考えるのを目指そうとするものである。 本講義は、日本と中国との歴史往来及び国際関係に興味を持つ学生を対象に、年代時間を軸にし、日本と関わりのある重要な歴史事件に重点を置くという形で日本がどのように世界を認識してきたか、日本がいかに世界とともに歩んできたか、日本の国際関係などをめぐって皆さんと知識を分かち合うことを通じて、世界における日本の今後の在り方をともに思考する。	○	◎	○					○		
	国際コミュニケーション入門	2	選択	In this course students will have the opportunity to reflect upon various basic issues regarding communication. Besides the basis of the concept of communication, they will reflect upon the impact of cultural values and cultural knowledge. Students will be encouraged to raise their own questions and also to make comments during class.	○							◎	○	
	留学プランニング	2	選択	本授業は、2年次の春学期から海外長期留学を実際目指したい学生を対象とする。何となくではなく確実に意欲をもった学生、さらにプレゼン力及びコミュニケーションがしっかりとれる学生であることが望ましい。21世紀に入り、グローバル化の進展とともに、カネ、モノ、情報、ヒトの移動がボーダレス化している。これらを踏まえて異文化理解と知識を備えて履修者全員海外長期留学を目指す。 本授業ではまず留学する意味や目的について学習し、続いて留学前の準備、留学志望理由書の作成、模擬面接の練習、留学先での過ごし方について学ぶ。最後に帰国後に留学した成果を継続的に維持する方法について考える。授業では、講義だけではなく、留学先について学生が調べ、授業でプレゼンテーションし、議論していく。	○							◎	○	
	Basic Writing Skills I	2	選択	This is a required course for first year students in the Department of International Exchange Studies. It covers the fundamental skills of sentence structure, paragraphs, and the writing process. During the semester, students will start producing a portfolio containing all their work which is to be submitted at the end of the quarter as a course requirement.				○	◎		○			
	Basic Writing Skills II	2	選択	This is a required course for first year students in the Department of International Exchange Studies. It covers the fundamental skills of sentence structure, paragraphs, and the writing process. During the semester, students will start producing a portfolio containing all their work which is to be submitted at the end of the quarter as a course requirement.			○	◎			○			
	Intermediate Practical Discussion Skills I	2	選択	This course aims to improve the student's speaking, conversation, and discussion skills. Students will learn how to conduct conversations and discussions in English, with the end goal of developing a higher level of conversational fluency and a wider range of conversation strategies. Students will also develop a knowledge of new and additional vocabulary on useful conversation and discussion topics.			○	◎			○			







ビジネス日本語I	2	選択	日本の企業文化への理解を深めるとともに、ビジネス場面で求められるマナーや日本語表現の基礎を、実践を通して身につける。				○	◎	○		○							
ビジネス日本語II	2	選択	将来日本の企業や海外の日系企業に就職を希望する学生が、ビジネスの現場で通用する日本語能力とともに、社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）と異文化調整能力（異文化を十分に理解し、異文化接触場面で起こる複雑な状況下で課題を遂行する能力）を総合的に修得することを旨とする。				○	◎	○		○							
キャリア日本語A（就職）	2	選択	将来、日本で働きたいと考える学生が社会に出るための準備をする。ビジネスコミュニケーションを図るために会社内の会話やケーススタディから学び、就職のための日本語（履歴書の書き方、面接の仕方、企業分析、エントリーシートの書き方）を学ぶ。また、日本語でのコミュニケーション能力を上げるために、テーマ別に調べる・考える・話し合うなどディスカッションを通して協働で学び合う力も養い、自らのテーマについてのプレゼンテーション力を上げる。				○	◎	○		○							
キャリア日本語B（進学）	2	選択	この授業は、学部卒業後、大学院進学を希望する学生を対象に、小論文やレポート、論文の書き方を体系的に習得するためのクラスである。				○	◎	○		○							
Fundamentals of Japanese A	4	選択	The goal of this class is to be able to comprehend spoken Japanese at a natural speed and communicate naturally in Japanese. From the very beginning, you will be exposed to spoken Japanese at natural speed. In addition to pronunciation and intonation, the understanding of Japanese language structures and their appropriate utilization are emphasized throughout this course. You are required to memorize vocabulary in advance of class time. You will also be required to do extended exercises.				○	◎	○		○							
Fundamentals of Japanese B	4	選択	The goal of this class is to be able to comprehend spoken Japanese at a natural speed and communicate naturally in Japanese. From the very beginning, you will be exposed to spoken Japanese at natural speed. In addition to pronunciation and intonation, the understanding of Japanese language structures and their appropriate utilization are emphasized throughout this course. You are required to memorize vocabulary in advance of class time. You will also be required to do extended exercises.				○	◎	○		○							
Fundamentals of Japanese C	4	選択	Students will learn how to integrate the basic structures and vocabulary, which they learned previously so that they can comprehend reading materials and perform various communicative functions. They will study new structures and vocabulary necessary to enhance their language skills. Although aural/oral skills are continuously emphasized, an increased amount of reading and writing will also be required. Students are expected to participate fully in classroom activities and discussions.				○	◎	○		○							
Fundamentals of Japanese D	4	選択	Students will learn how to integrate the basic structures and vocabulary, which they learned previously so that they can comprehend reading materials and perform various communicative functions. They will study new structures and vocabulary necessary to enhance their language skills. Although aural/oral skills are continuously emphasized, an increased amount of reading and writing will also be required. Students are expected to participate fully in classroom activities and discussions.				○	◎	○		○							
Intermediate Japanese Skills A	4	選択	This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover lower-intermediate level sentence patterns and expressions.				○	◎	○		○							
Intermediate Japanese Skills B	4	選択	This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover mid-intermediate level sentence patterns and expressions. Students will acquire Japanese skills useful for daily life.				○	◎	○		○							
Intermediate Japanese Skills C	4	選択	This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover mid-intermediate level sentence patterns and expressions. Students will acquire Japanese skills useful for daily life.				○	◎	○		○							
Intermediate Japanese Skills D	4	選択	This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover upper-intermediate level sentence patterns and expressions. Students will acquire Japanese skills useful for daily life.				○	◎	○		○							
JLPT Preparation A	2	選択	日本語をJLPTN 4合格レベルまで上げます。それと同時に、日本での生活や、学校で使える日本語を学びます。 Increase your Japanese to the level of JLPTN4 passing. At the same time, students will learn Japanese that can be used at school and life in Japan.				○	◎	○		○							
Advanced Japanese Skills A	4	選択	この授業では実際のコミュニケーション場面で、日本語で「できる」ことを増やすことを目標としている。授業が終わるころには、まとまりのある話をしたり、身近な話題の文の大切な点を理解したり、自然な速さの日本語を聴いて、大切なポイントがわかったり、SNSの投稿を読んだり、わからない言葉に出会ったときのストラテジーが使えることを目指す。				○	◎	○		○							
Advanced Japanese Skills B	4	選択	この授業では実際のコミュニケーション場面で、日本語で「できる」ことを増やすことを目標としています。授業が終わるころには、まとまりのある話をしたり、身近な話題の文の大切な点を理解したり、自然な速さの日本語を聴いて、大切なポイントがわかったり、SNSの投稿を読んだり、わからない言葉に出会ったときのストラテジーが使えることを目指します。				○	◎	○		○							
Advanced Japanese Skills C	4	選択	日本語能力試験N3相当の日本語力があると判断された交換留学・英語圏編入生が、N2合格のために読む・書く・話す・聞くの4技能を高める中級日本語科目である。主として日本語を用いるが、受講者の理解を助けるために英語を用いることもある。				○	◎	○		○							
Advanced Japanese Skills D	4	選択	日本語能力試験N3相当の日本語力があると判断された交換留学・英語圏編入生が、N2合格のために読む・書く・話す・聞くの4技能を高める。主として日本語を用いるが、受講者の理解を助けるために英語を用いることもある。				○	◎	○		○							
JLPT Preparation B	2	選択	このクラスでは、JLPTのN2レベルの達成を目指す。N2レベルの「読解・聴解」の試験対策はもちろん行うが、日本語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能をN2レベルかそれ以上に底上げすることが目的である。具体的にはテキストやクラスで学んだことを活用して以下のことができるようになる。 ①日本語の新聞が辞書を使ったり解説を受けながら理解できるようになる。②まとまった文章がととのった表現で書けるようになる。③ニュースが解説を受けながら理解できるようになる。④きちんとした表現で発表ができるようになる。				○	◎	○		○							
Japanese Project Education A	2	選択	This course is designed as a supplemental class for Japanese courses. Students are required to write their final Project paper on Traditional Japanese Culture. Students are also required to participate in three exchange activities.				○	◎	○		○							























地理歴史科教育法Ⅰ	2	選択	本科目では、地理歴史科教員に必要な「学習指導要領」の解説を中心とした授業を展開する。なるべく平板な授業とならないようにしたい。本科目の目標は、地理歴史科の担当教員に必要な学習指導案の作成方法をはじめとして、学習指導要領や教科構造の理解および実際の授業をすすめていくにあたって必要とされる教育技術の原理の習得をめざす。 本科目は、主として講義形式による授業形態をとるが、適宜、質疑応答を取り入れ、一方的な授業運営に陥らないように心掛ける。地理歴史科の担当教員に必要な学習指導案の作成方法や学習指導要領や教科構造の理解、実際の授業を進めるにあたって重要な教育技術など、地歴科の根幹を構成する内容全般にわたってテーマを取り上げる。	○							◎	4
地理歴史科教育法Ⅱ	2	選択	地理歴史科教育について、その目標、内容とともに、地理学・歴史学との関係についても講義する。また、講義だけに終始せず、学習指導案の作成をはじめ、試験問題・配布資料の作成、実際の模擬授業も適宜おこなう。本科目では、地歴科の教材の取り扱い方から具体的な作成方法の習得までプロセスを重視した授業に重点目標をおく。 学習目標にそった授業を展開するに際して、教材を取り上げ組織化していく実践的な活動が、いわゆる「教材研究」である。授業の良し悪しは教材研究いかんによることはいうまでもない。ただし、地理歴史科が対象とする社会的現象は、作為の契機を含んだ複雑な性格をもっているため、そのとらえ方には多義的な視点が生じる。授業者には確固たる教材作成の理念が求められるゆえんである。本科目では、生徒の立場にたった教材化の視点から教材作りの実際に行きわたるまでのプロセスを具体的な事例に即して取り上げていく。	○							◎	4
道徳教育の理論と方法	2	自由	この授業は、人間形成における「道徳教育」の重要な意義を歴史的な視点も含め総合的に理解するとともに、教職を志望する立場から現代社会における道徳と道徳教育の現状と課題について広く関心を持ちつつ、歴史的アプローチとして日本の近代教育と道徳教育の変遷をおさえつつ、21世紀に入って確立した「教科道徳」の意義と内容について取り上げていく。併せて、道徳教育のすぐれた教材や指導集を検討することを通して、道徳授業の実践的指導力の形成を図っていく。「新学習指導要領」の総則及び第3章への内容理解を踏まえつつ、新たな道徳教科書の教材研究と教材解釈に取り組んでみたい。そのうえで学級担任としての指導計画の立案と共に各回の指導案の検討と精練そして指導案に基づく模擬授業の実践を体験していく。	○							◎	4
総合的な学習の時間の指導法	2	自由	各教科等の学びを横断的・総合的に探究し、自己の生き方を考えていく総合的な学習の時間の特徴を踏まえ、往還的な探究学習を展開するために必要な知識・理論、具体的な指導計画・授業における指導方法などを理解する。 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質能力の育成を目指すものである。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導方法並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けるよう具体的な事例を通し、考察していく。	○							◎	4
特別活動論	2	自由	日本の学校教育において、特別活動はキャリア教育の要として教育課程に位置付けられている。生徒の全人的な成長を促すための教育活動の一つとして、特別活動は重要な役割を担っている。特別活動の教育的な理念を踏まえ、生徒を指導するために必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解する。 特別活動は学校における多様な集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動の総体である。特別活動の教育的な意義を理解し、学習指導要領改訂の三つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応等、特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付けるよう具体的な事例を通して、考察していく。	○							◎	4
生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)	2	自由	生徒指導は、生徒に対する総合的な指導であり、教育活動上、重要な位置をしめる。そのため、文部科学省は、教員への助言として生徒指導の基本原則や基本的事項・心得をまとめた「生徒指導提要」（平成22年3月。文部科学省）を発行するとともに、それをもとにした実践を期待した。そこで、本授業では「生徒指導提要」の概略の理解を第一義とし、さらに、生徒指導の実践に対する深い見識を持つことを目標とした。また、この中には進路指導・キャリア教育も含まれるため、それらについても理解を深める。	○							◎	4
教育相談(カウンセリングを含む)	2	自由	現代の学校でおきている不登校、いじめ、非行などの問題を通して、思春期・青年期にある生徒に特有の心の特性を、教師として受容的・共感的に理解し、自ら乗り越えることを通して人格的成長を促す関わり、態度を養う。また、教育相談の理論的・技術的な基本となるカウンセリングの理論と方法を学習し、生徒の相談に応じるための聴き方、傾聴的関わりを実践できることをめざす。さらにカウンセリングの基本となる考え方を自らの教育実践に生かすことのできる教師になることを期待している。	○							◎	4
介護等体験	2	自由	この授業は、特別支援学校及び社会福祉施設での介護等体験とその事前・事後指導で構成される。 この授業の目標は教員として必要な人間関係能力を養い、個人の尊厳及び共生社会の理念に関する認識を深めることである。そのため、特別支援学校の児童・生徒及び社会福祉施設の利用者などのさまざまな人々の生き方、相手の立場を尊重した接し方など、互いを尊重した人間同士のコミュニケーションを通して教師としての在り方を模索する。 また、特別支援学校及び社会福祉施設での実習を通して、教員を目指す者として人間の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることを目指す。	○							◎	4
教育実習Ⅰ(事前及び事後指導を含む)	2	自由	教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえて教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。	○					○		◎	4
教育実習Ⅱ	2	自由	教育実習は3年次までのすべての学習経験をふまえて教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。	○					○		◎	4
教職実践演習(中・高)	2	自由	この授業は教職課程の総まとめの科目であり、これまでに学んだ教職に関する知識、専門教科に関する知識、そして教育実習で得た経験、さらに教職インターンシップや学習チューター等で得た知識・技能を統合して、振り返りをおこなっていく。将来、教員としての責務を果たすために求められる教育実践において補わなければならない点を認識し、それを補い、発展させるために模擬授業、フィールドワーク、グループ討論等を通して学び身に付けて、学校現場で活躍できる教員を目指す。	○					○		◎	4
日本語(言語知識)	2	自由	この授業は、上級レベルの力をつけるためのクラスである。試験のための言語知識・文法に関する問題の解き方など、どのようなストラテジーで問題を解いていくか、問題解答の方略を学ぶ。また、この授業では、単に言語知識を得るだけでなく、学んだ知識を活用して、学部の学びの中で使用できるようになることを目指す。			○				◎	○	
日本語(読解・聴解)	2	自由	このクラスは、上級レベルの力をつけるための授業のクラスであり、N2以上のレベルの学生が対象である。日本語能力試験のための読解・聴解に関する問題の解き方など、どのようなストラテジーで問題を解いていくか、問題解答の戦略・方略を学ぶ。また、この授業では、単に読解力や聴解力を養うだけでなく、学んだ内容を活かして、学部の学びの中で使用できるようになることを目指す。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要となる。			○				◎	○	

特設科目群	日本語A	2	自由	日本語能力の包括的な底上げをするため、文法・読解・聴解・文字・語彙などを総合的に学んでいく。話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく学び、単に言語知識を学ぶだけではなく、学んだ知識を使えるようになることを目的としている。そのため、学んだ内容を駆使し、発表したり、ディスカッションしたりする。特に口頭産出を学ぶ。授業外では、毎回、4時間程度の課題と復習が必要である。				○		◎		○				
	日本語B	2	自由	この授業は、内容面では「衣・食・住・廃棄物」といったテーマについて理解し、仲間との対話を通して自分なりの考えを形作り、表現できるようになることを目指す。技能面ではテーマに関する読み物を読み、音声を聞き、仲間と対話し、ふり返りを書くという一連の活動を通して、4技能をバランスよく使えるようになることを目指す。				○		◎		○				
	日本語C	2	自由	N2レベルの単語、漢字を習得し日本語能力試験N2に合格することを目標とする。 N2からN1へのステップアップも視野に入れる。 いまの自分の日本語能力でできること、できないことを明確にし、ステップアップを図る。 単に言語知識を学ぶだけではなく、学んだ知識が使えるようになることを目的としている。そのため、学んだ内容を使って、発表したり、ディスカッションしたりする。最後には自分の考えや意見をまとめ、発表およびレポートにまとめる。また、日本語能力試験のN2対策も授業で扱う。特に文字・語彙に力を入れます。授業外では、毎回、2時間以上の課題がある。				○		◎		○				
	日本語D	2	自由	JLPT N2合格を目指して、聞き取りのスキルを学ぶ。具体的には、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりする力をつけることを目指す。				○		◎		○				
	日本語E	2	自由	日本語能力の包括的な底上げをするため、文法・読解・聴解・文字・語彙などを総合的に学んでいく。話す・読む・書く・聞くの4技能をバランスよく学び、単に言語知識を学ぶだけではなく、学んだ知識が使えるようになることを目的としている。そのため、学んだ内容を使って、発表したり、ディスカッションしたりする。最後には自分の考えや意見をまとめ、発表およびレポートにまとめる。また、日本語能力試験のN2対策も授業で扱う。特に読解に力を入れる。				○		◎		○				

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

#### SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」